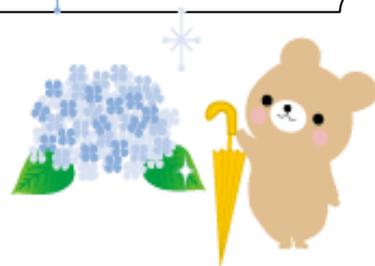


高次脳機能障害について

梅雨真っ只中の6月16日に第156回支援研が開催されました。今回のテーマは「高次脳機能障害について」です。当協議会では、高次脳機能障害者の就労についてワーキンググループを設置して検討してくるなど、これまででも何度か当研究会のテーマで取り上げてきました。しかし、まだまだ高次脳機能障害のある人たちの支援が広がっていないのが現状です。今回は改めて、当事者家族の方や高次脳機能障害を支える関係機関の方々にお話し頂きました。



まず、北九州市障害者福祉センター理学療法士 片山充さんからは、高次脳機能障害の診断基準、症状などについてお話し頂き、障害特性に配慮した環境作りや、対応方法について具体的に話してもらいました。最近まで、片山さんは医療現場で活躍されていて、医療用語についても、丁寧に説明して頂きました。



お話しの中で、高次脳機能障害の診断基準のガイドラインが確立され、きちんと対応され始めたのが2001年と最近のことであり、関係者の中でも、まだまだ広がっていないとのことでした。

なお、北九州市障害福祉センターでは、市内在住の当事者と家族の方を対象に、「高次脳障害者の集い」が月1回開催されていて、レクリエーションなどをおして当事者同士が交流し、仲間作りを行っているとのことでした。



次に福岡市にある『NPO法人 福岡・翼の会 地域活動支援センター「翼」』理事長 中川修一さんに、事業所の活動内容や当事者・関係者に必要な支援・課題についてお話し頂きました。

家族会が運営する作業所を経て、NPOとして独立した「翼」は当事者が生きがいを持ち、自分らしい生活、よりよい明日を目指すために設置された会で、平成23年1月現在の利用者は29名。利用者の皆さんは、中川さんを始め、言語聴覚士、パソコン教師、声楽家の方々の指導を受けながら、布ぞうりの製作、新聞のカラー紙面でリースを作る等の手工芸品の製作、パソコン教室、声楽、ストレッチ、グループワーク等をして、一日を過ごされているとのこと説明がありました。



※翼ホームページ <http://www.f-tsubasa.org/>



そして、最後に当事者のご家族の会である『福岡・高次脳機能障がい者と共に歩む 翼の会』会長 安邊憲治さんからお話し頂きました。最近では、事故などによる外傷性よりも、脳血管障害に起因する割合が増えているこの障害は「いつ誰にでも起こりうること」、「長期に継続した支援があれば改善されていくこと」、「社会資源の充実が必要であること」、「見た目では障害がわかりにくく、症状を周囲の人になかなか理解して頂けないこと」がポイントであるとのことでした。高次脳機能障害は精神障害者保健福祉手帳の対象となるのですが、高次脳機能障害を周囲の人たちに理解してもらい、障害に応じた支援を確立していくためには、この障害独自の支援システムを確立することが不可欠であり、この障害独自の「高次脳機能障害者手帳」の制度化が必要であることを強調されていました。

そのためには、医療や福祉関係機関以外に行政、地域、教育、職場への啓発活動をさらに進めていく必要があるとのことでした。この障害に限ったことではありませんが、社会全体の理解が求められていることは間違いありません。



なお、今回の参加者は57名。そのうち30名の新規の方にご参加頂きました。

※こちらの議事録は北九州市障害者自立支援協議会のホームページでもご覧いただけます。

<http://kitakyushu-net.shien-c.com/>

